

在籍校名 岡垣町立山田小学校
職・氏名 教諭 後藤 秀明

研 修 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

2 主題研修について

研究主題 「児童の共感的な関わりを生む要因の一考察

－授業中における教師の発話と行動の分析を通して－」

(1) 研究のねらい

ア 課題の背景

生徒指導提要の「教科における生徒指導」では、教科において生徒指導を充実させるために教師が指導力を発揮する観点の一つとして、「共に学び合うことの意義と大切さを実感させる」ことが挙げられている。また、協働して学ぶ場を設け、児童生徒一人一人が互いの違いを認め合い、互いに支え合う中で、学び合う人間関係が醸成されていくことが述べられている。

在籍校では、道徳教育の重点目標の一つとして、「思いやりの心をもち、相手のことを考えて行動する」ことを掲げている。指導にあたっては、指導方法の工夫として、「一人一人の思いを大切にし、みんなで考え合う場の設定」などを示し、児童が互いを尊重したり、支え合ったりする共感的な関わりを育成することを大事にしている。しかし、自身の実践を振り返ると、児童の共感的な関わりを育むための働きかけを意図してできていない状況があった。そこで、児童の共感的な関わりを生むには、教師のどのような働きかけが要因となるのかを究明したいと考え、本主題を設定した。

イ 研究の目的

授業中における児童の共感的な関わりを生むために有効な教師の発話と行動を明らかにする。

(2) 研究の構想

ア 主題の説明

「共感的な関わり」とは、相手の行為や考えに対して、自分が納得したり感動したりしたことを素直に表現することである。そして、相手の立場に立って相手がどのように感じるかを考えて表現することである。

さらに、学習指導要領解説総則編には、「児童一人一人が自己の存在感を実感しながら、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を豊かにもち、自己実現を図っていける望ましい集団の実現は極めて重要である。」と述べられている。つまり、児童生徒が自他の個性を尊重し、互いの立場になって考え、相手のよさを見つけて認め、受け入れようとする集団づくりの中で、共感的な関わりは育まれる。そのためには、児童一人一人が、共感的に相手と関わるような場や環境を整えることが必要であると考えられる。

イ 副題の説明

本研究では、児童の共感的な関わりを生む要因を探るために、教師の発話と行動に注目した。教師の

児童に対する期待や思い込みなどが児童の成長に関わっていると捉え、教師の言動は、児童に何らかの影響を及ぼすと考えたからである。また、授業は、教師と児童全員で共に学びをつくっていく時間であるため、研究の対象を「授業中」に設定した。

表1 教師の「発話」の分類

助言	発問		児童の思考の促すため
	指示		学習の方向付け、見通しをもたせるため
	はげまし	支援	「なるほどね、そんな考えもあるんだね。」
		容認	「どうしてそんな答えになったのか理由を教えてくださいかな。」
	賞賛	「〇〇から根拠を見つけて考えをつくることができたね。」	

教師の発話と行動は、福岡県教育センターの調査研究「教師が身に付けておきたい授業技術」(2012)を参考にした。本研究での授業中における「発話」とは、発問と助言のことである(表1)。助言には、指示とはげましがあり、はげましの中には、支援と容認、賞賛が含まれている。本研究では、発問とはげましに注目した。「行動」とは、発話に伴って表れる身振りや板書、全体を見る行為など、発話以外で児童に対して行われる教師の非言語的な関わりとした。児童の共感的な関わりが見られたときの前後に、教師のどのような発話と行動が関係するのかを分析することを通して、児童の共感的な関わりを生む要因の仮説を生成したい。

ウ 研究の内容

(7) 調査対象

A町立B小学校6学年C組31名、授業者

(4) 調査内容

道徳科の授業における教師の発話と行動、児童の反応の記録

(5) 分析方法

児童の共感的な関わりを生む教師の発話や行動を見いだすために、まず、児童の共感的な関わりを捉えた。その姿を捉え

表2 児童の共感場面を分析するための要素

藤原の共感の要素	よく分かった	すごいと思った	よく目にする
本研究での分類	㊶納得	㊸感動	㊹経験
具体的な姿	「同じです。」 「そうです。」 うなずき 拍手	「すごい。」 拍手	「分かる。」 「自分にもある。」

るにあたっては、藤原(2017)が「共感力」と「認識力」の重要性に関する研究の中で示した共感の要素に注目した。藤原は、㊶「よく分かった」、㊸「すごいと思った」、㊹「よく目にする」などを共感の要素として整理している。本研究では、その要素を㊶納得、㊸感動、㊹経験と分類した。さらに、表2に示すように、具体的な姿として「同じです。」「そうです。」という発言を㊶納得、「すごい。」という発言を㊸感動、「分かる。」「自分にもある。」という発言を㊹経験とした。また、発言だけでなくうなずきや拍手などの行為も㊶納得や㊸感動を示す行為であるとした。

上記の要素を基に、教師の発話と行動、児童の反応の記録を分析した。その中で、児童の共感的な関わりが強く見られた場面を「共感場面」として抽出した。また、「共感場面」と同様の学習展開にあった場面を「比較場面」として抽出した。

抽出した各場面から、表1に示した発話を分類し、発話とそれに伴う行動を分析した。

(3) 研究の実際

ア 授業の実際

(7) 主題名(内容項目)

集団での役割(C16 よりよい学校生活、集団生活の充実)

(4) 「教材名」(出典)

「二十五人でつないだ金メダル」(日本文教出版)

(5) 本時のねらい

選手とテストジャンパーの両者が大切にしている心話し合う活動を通して、集団を支えているのは自分たち自身であるということに気づき、集団における自分の役割を自覚し責任を果たそうとする道徳的態度を育てる。

(エ) 教材「二十五人をつないだ金メダル」の概要

本教材は、1998年、長野オリンピックのスキージャンプ団体競技の実話である。日本代表チームが4位の状況で天候が悪化し、競技は中断された。日本が金メダルを取るためには、25名のテストジャンパーが無事に飛んで、安全であることを証明し、競技が進行される必要がある。西方さんら25名は、「絶対に選手たちを飛ばせよう。」と決意し、テストジャンプに挑んだ。全員がテストジャンプを成功させたことで競技は再開され、日本代表は悲願の金メダルを獲得したという話である。

(オ) 本時展開の記録

本時展開の記録を資料1に示す。

	児童の活動	教師の発話や行動と児童の反応 ()内は行動を示す。
導入	1 集団で活動した経験を想起し、学習のめあてを学習プリントに記入する。(T1-T13 C1-C17)	T3 運動会や修学旅行に、行くことができてよかったですね。 C5 はい。 T4 素晴らしい姿がたくさんあったと先生は聞きました。集団で何かをするときに大切にしていた心はありますか。 C6 周りを考える。 T7 集団で活動するときに大切にしたい心を一緒に考えていきましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて 集団で活動するときに大切な心について考えよう。</div>
展開前段 ①	2 教材「二十五人をつないだ金メダル」を基に、集団で活動するときに大切な心について話し合う。 (1) 資料で心に残った場面と理由について発表する。(T14-T49 C18-C75)	T22 みんなはどんなことが心に残りましたか。ペアで交流をしてください。(机間指導) C26 (ほとんどのペアが正対して交流) T24 心に残った場面とその理由を発表してください。 C30 心に残った～中略～ C32 (小さく拍手)㊦㊧ C35 (うなずいている)㊦ T(児童の発表したキーワードを板書) キーワード <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・目立つ立場ではなくても頑張る ・周りの人のために頑張る ・仲間を応援する ・視界も悪くて危険なのに ・選手に金を取らせたい ・出ることができない人の分まで頑張ろう </div>
	(2) 選手とテストジャンパーの両者が大切にしていた心話し合う。(T50-T97 C76-C120) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習展開 1 個人で考える。 2 班で話し合う。 3 全体で話し合う。 </div>	T51 選手とテストジャンパーどちらもが大切にしていた心は何でしょう。 ※個人で考え、班での話し合い T79 意見を発表してください。 T(児童の発表したキーワードを板書) キーワード <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間を思いやる ・金メダルを取りたい ・自分たちのできる行動をする ・自分も頑張る ・仲間も頑張っている </div>
展開前段 ②	共感場面 (T85-T91 C107-C113)	T85 この金メダルは誰のものですか。(全体に視線を送る) C107 選手。みんな。選手。みんな。(※複数の児童の発言) C109 私は、みんなだと思えます。～中略～ C110 いいです。同じです。㊦ C111 ぼくは、選手だと思えます。～中略～ C112 そうです。同じです。㊦ T91 なるほどね。～中略～ C113 (数名の児童のうなずき)㊦
	比較場面 (T92-T96 C114-C119)	T94 テストジャンパーは嫌々やったりしてないかな。 C116 やってない。やっていないと思う。 T95 そう、やっていないと思いますか。なぜですか。 C118 仲間を思っているからです。 T96 なるほどね。金メダルを取るために仲間を思っているから。 C119 (C117とC118の児童のうなずき)㊦

／ 展 開 後 段	3 本時の学びで自分に生かせることを学習プリントに記入し、発表する。 (T98-T101 C121-C132)	T98 今日学んだことを基に、これまでの自分を振り返り、これからどのように生活していきたいかを書きましょう。 C123 これから周りの人のために頑張っていこうと思いました。 C124 <u>(拍手)㊦㊧</u> T100 周りのために頑張ろうという気持ちがすごく感じられました。 (児童の発表したキーワードを板書) C128 相手の事を思いやって行動できるようになりたいです。 C129 <u>(拍手)㊦㊧</u> T102 実際のインタビューの映像を見てください。
	／ 終 末	4 集団で活動するとき大切な心について原田さんのインタビュー動画を見る。 (T102-T105 C133-C137)

資料1 本時展開の記録 (T:教師の発話や行動 C:児童の反応 数字は通し番号) ※ …分析部分

イ 結果

(7) 「共感場面」と「比較場面」の抽出

児童の共感的な関わりが多く見られた【展開前段—②】(前頁資料1※四角囲み)における教師の発話と行動を分析した。【展開前段—②】では、中心発問の後に道徳的価値へと迫るための二つの深める発問が設定されていた。中心発問は、T51「選手とテストジャンパーどちらも大切にしていた心は何でしょう。」である。深める発問は、T85「この金メダルは誰のものですか。」(以下、深める発問①)とT94「テストジャンパーは嫌々やったりしていないかな。」(以下、深める発問②)である。共感の要素㊦C110「いいです。同じです。」、C112「そうです。同じです。」の発言や、T91の教師の発話に対して複数名の児童のうなずきが見られたのは、深める発問①が行われた場面であり、これを「共感場面」とした。「共感場面」と同様の学習展開である深める発問②が行われた場면을、「比較場面」として抽出した。資料2に示したT85の教師の発話からC113(数名の児童のうなずき)の児童の反応までの場面が、「共感場面」である。また、T92の教師の発話からC119(C117とC118の児童のうなずき)の児童の反応までが、「比較場面」である。

展 開 前 段 — ② 全 体 で の 話 合 い	共 感 場 面	T85 <u>なるほど。自分も頑張る。[支援] (児童の発言のキーワードを板書する。)</u> <u>仲間も頑張っている。[支援] (児童の発言で出たキーワードと線でつなぐ。)</u> <u>ちょっと、聞きたいんだけど、金メダルを取るためってあるけど、(板書されたキーワードを示す。)</u> ①この金メダルは誰のものですか。 (全体を見ながら金メダルの写真を児童に見せる。)
		C107 選手。みんな。選手。みんな。※複数の児童の発言
		T86 <u>みんな。選手。どっち。</u> (中腰で児童の目線の位置になり写真を動かす。) <u>みんな。選手。ちょっと近くの人と相談して、どっちですか。</u> (全体を見ながら、身振りを交えて。)
		C108 選手。みんな。→※その後、話合い
		T87 発表してください。
		C109 私は、みんなだと思います。選手だけではなくていろんな人が関わっているからです。
		T88 はい。[支援] (金メダルの写真を児童に見せて、うなずきながら聞く。)
		C110 いいです。同じです。㊦
		T89 (C109の発言のキーワードを板書する。)いろいろな人。[支援] <u>他の考えありますか。</u>
		C111 ぼくは、選手だと思います。なぜなら選手も…、～中略～ (全体の方を見ながら。)
		T90 うん。うん。[支援] (うなずきながら聞く)
		C112 そうです。同じです。㊦
		T91 <u>なるほどね。確かにもらったのは選手だね。[支援] (全体を見ながら。)</u> <u>金メダルを取るためにいろんな人が、関わっているのも事実だね。[支援] (全体を見ながら。)</u> ということは、(板書されたキーワードを示す。) 選手もテストジャンパーも <u>金メダルを取るために</u> という思いは同じだった。[支援] (児童の発言のキーワードを矢印でつなぐ。) <u>そうか。[支援] (児童全体を見ながら中腰の前傾姿勢で。)</u>
C113 (数名の児童のうなずき)㊦		

比較場面	T92	あと、もう一つだけ聞きたいんだけど、テストジャンパーのみんなって、オリンピック選手を目指していたんだよね。
	C114	はい。
	T93	オリンピック選手を目指すってことは、すごく努力しているんだよね。
	C115	はい。
	T94	でも、選手になれなかった。(板書に残っている「複雑な思い」のキーワードを指し示す。) そのときに、テストジャンパーとして頑張りましたね。 ② テストジャンパーは嫌々やったりしていないかな。
	C116	やってない。やっていないと思う。
	T95	そう、やっていないと思いますか。[支援] なぜですか。(C116を見て。)
	C117	仲間を思っているからです。
	C118	いいです。
	T96	なるほどね。金メダルを取るために仲間を思っているから。[支援] (黒板のキーワードに赤で印を付けたリ、線でつないだりしながら。) 嫌々ではないということだね。[支援] (C117を見て。)
	C119	(C117とC118のうなずき)④

資料2 展開前段—②の全体での話合いの記録 □:発問 ◒:はげまし (斜体):行動

(イ) 共感場面と比較場面における教師の発話と行動の比較

共感場面と比較場面を教師の発話と行動を基に比較し、四つことが明らかになった。一つは、共感場面において、C109「私は、みんなだと思います。選手だけではなくていろんな人が関わっているからです。」に対して、T89「いろんな人。」という児童の発言を繰り返す発話[支援]があったことである。同じように、比較場面においても、C117「仲間を思っているからです。」に対して、T96「なるほどね。金メダルを取るために仲間を思っているから。」という児童の発言を繰り返す発話[支援]があった。このように、両場面に見られた[支援]の発話は、共感場面ではT88、T90やT91の共感を示す発話[支援]も加わり、何度も繰り返されていた。二つは、共感場面に見られたT86話合いを促す【発問】は、比較場面では見られなかったことである。また、T88、T90やT91の共感を示す発話[支援]は、比較場面ではT95のように見られたものの、一回のみであった。

三つは、共感場面において、T86「みんな。選手。どっち。」や比較場面において、T95「なぜですか。」という児童の考えを尋ねる【発問】が両場面で見られたことである。この【発問】の際、共感場面では、【発問】に伴う、全体に視線を送るという行動が見られた。全体に視線を送るという行動は、共感場面全体で見られており、比較場面では見られなかった。四つは、共感場面に見られた児童の考えを可視化する行動(T85波線、T91波線)は、比較場面では一回のみであったことである。

(4) 全体考察

児童の共感的な関わりを生む要因について述べる。要因として、二つ導き出した。一つは、児童の思考の流れを大切にした発話である。図1に示す【発問】と[支援]は、両場面で見られているが、共感場面では、児童の反応Iである「数名の児童の発言」を受けて、話合いを促す【発問】もしている。共感場面では児童の反応を受けた【発問】と[支援]が繰り返して行われており、それぞれの児童が、自分はどうなのかと考える機会

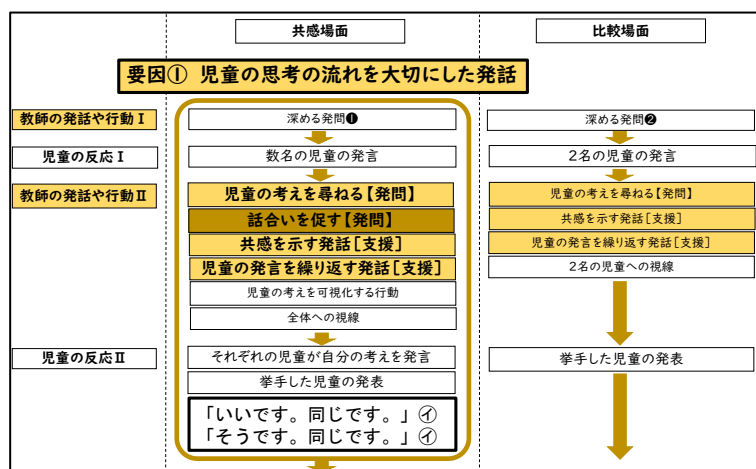


図1 要因①に関する児童の反応前後の教師の発話と行動

を与えられたことで、児童が友達考えに興味をもち、自分の考えと比べて聞くことができたものと推察される。その後、友達の発言に対して、④「いいです。同じです。」④「そうです。同じです。」と

児童が反応し、④納得の共感につながっている。それまでの児童の反応は、教師に対しての反応が中心であったことから、児童の思考の流れを大切にしたい発話は、児童により自由な発言を促したものと考える。秋田(2015)によると、聞くとは、「特定の発言だけでなく、話し合いの流れという文脈を聞き取りながら、内容を関連づけること、その言葉と自分のそれまでの意見や考えを関連づけて内面的に対話しながら統合し、自分の言葉を創り出していく状況的な思考過程である」¹⁾と述べており、児童の発言を聞くことの効果を示されている。よって、この場面での教師は児童の反応を受け止め、児童の思考の流れを大切にしたい発話ができたと推察される。

二つは、全体を見ながら、発話と行動を行うことである。生徒指導提要では、「教員は言葉だけでなく、言葉と同じメッセージを態度で示す必要」があると述べられている。共感場面では、先に示した児童の考えを尋ねる【発問】と話し合いを促す【発問】が、全体を見ながら児童に体を向けて視線を合わせようとすることや、児童の考えを可視化する行動などと共に行われていた。具体的には、児童の目の高さに教師が視線の位置を合わせたり、前傾姿勢で語りかけたり、全体へ視線を送るように顔を動かしながら板書したりするような行動が複数回確認できた。さらに、児童全員が自分の考えをもてるように促したり

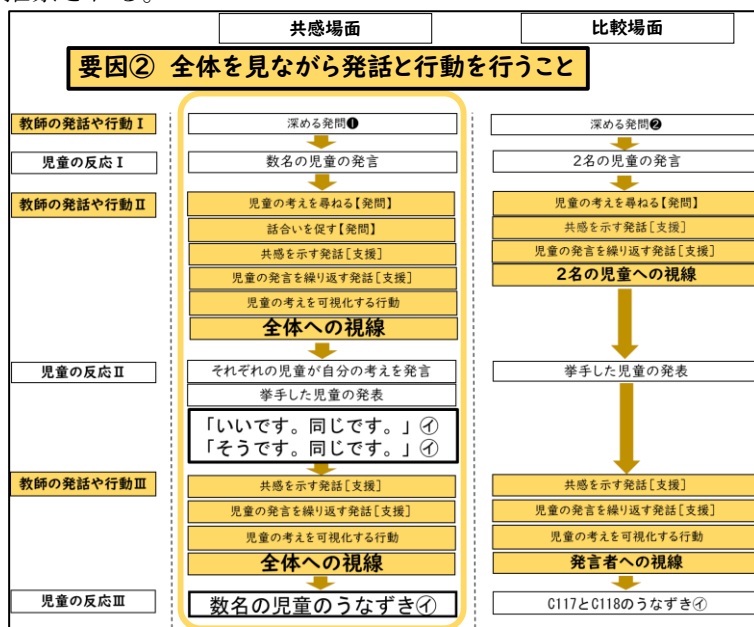


図2 要因②に関する児童の反応前後の教師の発話と行動

一人の児童の発言を全体へ共有しようとしたりする教師の態度があった。このことは、児童に対して、「全員を受け入れ、共に学ぶ」という教師のメッセージとして伝わったものと考えられ、数名の児童のうなずきがあり、④納得の共感が生まれたと推察される。

これらのことから、授業中において、児童の共感的な関わりを生む要因は、児童の思考の流れを大切にしたい発話と、全体を見ながら発話と行動を行うことであると考えられる。

分析を進めていく中で教師と児童のやり取りを見ていくと、児童に共感を示す教師の言葉に対して、児童が共感的な態度を示し、更に、共感的な児童の態度に対して、共感を示す教師の姿が見られた。児童が共感的に関わる姿は、教師の児童に対する共感的な態度をより一層引き出し、教師と児童は相互に影響し合い、互いの共感的な関わりを生んだことも推察される。

(5) 研究の成果と今後の課題

ア 研究の成果

- 授業中において児童の共感的な関わりを生む要因として、児童の思考の流れを大切にしたい発話と、全体を見ながら発話と行動を行うことを見いだすことができた。

イ 今後の課題

- 児童の共感的な関わりを生む要因として、教師と児童が相互に影響し合う可能性を究明するために、児童の発話と行動の分析も進める必要がある。

<参考文献>

- ・ 福岡県教育センター (2012) 「調査研究 教師が身に付けておきたい授業技術」 調査研究報告書
- ・ 藤原 健剛 (2017) 「特別活動指導における『共感力』と『認識力』の重要性に関する一考察：教職課程を学ぶ学生の意識分析を通して」 p. 3-p. 12 甲南大学教職教育センター年報・研究報告書

<引用・参考文献>

- 1) 秋田 喜代美他(2015) 『学校教育と学習の心理学』 p. 60 岩波書店

【添付資料】

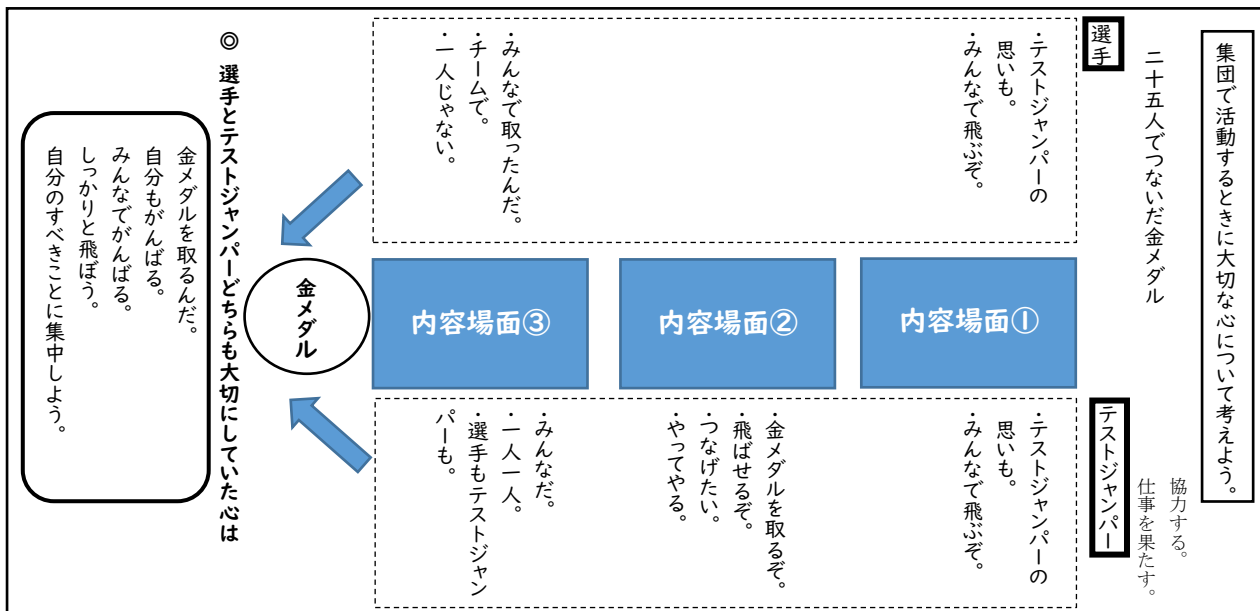
【道徳科学習指導案（略）】

1 本時の展開

段階	児童の活動	○ 主な指導上の留意点 ※評価
導入	<p>1 集団で活動した経験を想起し、学習のめあてを学習プリントに記入する。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて 集団で活動するときに必要な心について考えよう。</p>	<p>○ 集団で活動するときに必要な心について問題意識をもつことができるように、運動会や修学旅行などの成功体験を想起させ、「どんな心が大切なのか」発問する。</p>
／展開前段 ①	<p>2 教材「二十五人をつないだ金メダル」を基に、集団で活動する時に大切な心について話し合う。</p> <p>(1) 資料で心に残った場面と理由について発表する。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">発問① 心に残った場面はどこですか。それはなぜですか。</p> <p>予想される反応例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>内容場面① 原田選手が他人のウェアを使っていることに西方さんが気付いた場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストジャンパーの思いも背負っていると思ったから。 ・西方さんが原田さんの思いに気付いて感動しているから。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>内容場面② テストジャンパーがジャンプすることを決め、次々と成功させていく場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西方さんの強い心を感じたから。 ・金メダルを取るぞ、と飛ばせたいという思いを感じたから。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>内容場面③ 競技再開後、日本が悲願の金メダルを獲得し、原田選手がインタビューに答える場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでがんばって金メダルを取ったから。 ・自分一人や選手だけで取ったんじゃないという気持ちが伝わるから。 </div>	<p>○ 教材の内容を振り返るために、あらすじを提示する。</p> <p>○ 話し合う際に自分の考えを整理しやすくするために、事前に教材を読んで心に残った場面とその理由を書いておくようにする。</p> <p>○ 選手とテストジャンパーという違う立場でも、同じ目的や気持ちをもっていることが視覚的に捉えられるように、選手の気持ちとテストジャンパーの気持ちを分けて板書する。</p>
／展開前段 ②	<p>(2) 選手とテストジャンパーの両者が大切にしていた心を話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">発問② 選手とテストジャンパーどちらも大切にしていた心は、何でしょう。</p> <p>予想される反応例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・金メダルを絶対にするんだという心 ・自分もみんなと一緒に頑張るという心 ・しっかり飛ぼうという強い心 </div>	<p>○ 自分の考えを伝えたり、様々な視点で考えたりできるように、班での話合いから全体での話合いを設定する。</p> <p>○ 自分も集団を支える一人なんだという心や役割を自覚する心に気付くことができるように、共通する心の意味しているところを問いつつ発問を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「金メダルは誰のものですか。」 ・「テストジャンパーである西方さんは嫌々飛んだのですか。」

<p>／展開後段</p> <p>／終末</p>	<p>まとめ 集団の目的達成に向かって、</p> <p>3 これまでの生活を振り返り、本時の学びで自分に生かせることを学習プリントに記入し、発表する。</p> <p>予想される反応例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会でのダンスの成功に向けて、ダンスのリーダーとしてみんなのことを考えて取り組むことができた。これからも自分の役割を考えて頑張っていきたい。 ・ 修学旅行のときに、めあてに向かってみんなと協力して行動できた。これからも目標やめあての達成に向けてみんなと頑張っていきたい。 <p>4 集団で活動するときに大切な心についての原田さんのインタビュー動画を見る。</p>	<p>自分も集団を支えているという心 自分もみんなと一緒に頑張ろうとする心 しっかり責任を果たそうとする心</p> <p>○ 自己のよさや不十分さを自覚できるように、これまでの自分の集団での役割を振り返り、本時の学びで自分に生かせることを考えるようにする。</p> <p>○ 児童が生活を具体的に想起しやすいように、実際の場面の例を挙げる。</p> <p>※ 集団の目的達成に向けて、役割を果たせた経験を振り返り、これから頑張りたいことを記述している。【学習プリント】</p> <p>○ 実践への意欲化を図れるように、金メダル獲得後の原田さんのインタビュー動画を流す。</p>
-------------------------	--	--

2 板書計画



3 学習プリント

<p>今日の学習はどのくらいできたか。</p> <p>あてはまるものに○をつけてしよう。</p> <p>思ったより <input type="checkbox"/> 難しく感じた <input type="checkbox"/> これから大層に <input type="checkbox"/> したいと思う <input type="checkbox"/></p>	<p>自分の考え</p>	<p>本達の考え</p>	<p>自分の考え</p>	<p>め</p> <p>二十五人をつないだ金メダル () 番名前</p> <p>選手とテストジャンパーどちらも大切にしていた心は、何でしょう。</p>
---	--------------	--------------	--------------	--